

北海道のイタリア語検定

幸正 和典

北海道日伊協会が、実用イタリア語検定試験をお手伝いすることになったのは、1996年(平成 8年)3月24日(日曜日)開催の第2回試験からだった。前年の9月に第1回実用イタリア語検定試験が、東京、京都、広島 の3都市で初めて実施され、1級から5級まで1,636人もの方々が受験されたとのことでした。

各地の日伊協会が実施運営に携わり、無事実施できたとのことで、第2回は、全国の日伊協会に協力をお願いして全国規模に拡大したい、と要望があったものです。これに、各日伊協会が賛同し、第2回実用イタリア語検定試験(3級から5級まで)は、札幌、仙台、東京、名古屋、京都、大阪、広島、福岡の8都市で開催されることになり、ほぼ全国規模に拡大されることになったのです。

当初から試験のシステムが確立されており、厳重に試験問題とリスニング試験用のカセットテープが送られてきて、準備から試験の進行・アナウンス・手順までシナリオがしっかり明記されており、簡単な事前打ち合わせで当日運営が可能ないように整っていましたので、問題なく行えそうでした。

一番の問題は、現地で確保しなければならない試験会場です。当時の北海道日伊協会の事務局は、白石区の(株)宮川建設にありました。検定試験ですから、とにかく静かで、机と椅子が試験用の距離をもって配置でき、なお且つリスニングテープを確実な音質で流せなければなりません。札幌市中心部で実施するべきですが、適当な会場・機材に心あたりが無く、苦肉の策で宮川建設の会議室で行うことにしました。

初めての札幌開催なので、受験者は、3級はいなくて、4級と5級で合わせて10数人だったかと思えます。4階にある会議室は広いので机のレイアウトは自由に行えます。カセットデッキの音響を確かめ、リスニング試験中は、空調を止めて実施します。日曜日ですが、会社の営業部には人がいますので、全社に周知、協力を依頼します。

時は3月です。まだ雪が降りつける中、最寄りの地下鉄から徒歩15分。JR駅からも15分かかる会社に、受験生が

集まってきます。敷地内駐車場はありましたので、車で来た方もいらしたかもしれませんが、遠くから雪に当たりながら歩いてくる姿が見えます。申し訳ない気持ちになりながら、会場へ案内して、試験開始までの時間にお話をお聞きしてみますと、札幌以外からわざわざ受験にこられて、終わったらずくにJRで帰る方がいたり、札幌開催を待ち望んでいた方や、これを機会に始めてみた方など、なかなかバラエティ豊かでイタリア好きな気さくな方達で、楽しい思い出もしました。

なんとか無事運営できましたが、やはり会場立地に難あり。しかも、1から5級を実施するには3部屋必要です。当時、イタリア映画の夕べを「かでる2.7」視聴覚室で開催していました。視聴覚室ですから音響設備は完璧です。また、市内中心部、空調も良し、機材も借りられるということで、数回目からは、現在も実施している「かでる2.7」に移動しました。

さて、それからの至上命題は、会場確保の抽選会で勝ち抜くことです。当時は、月1回、朝7時頃に「かでる2.7」1階ロビーで申し込み・抽選会・本申込と機材の予約を行っていました。実施日が決まっているのですから、是が非でも会場を押さえなければなりません。第3候補まで考えながら、抽選日当日に祈る思いで臨みました。会場が時々まばらなのはこのためです。無事会場を確保できても、安心できません。当日行ってみたら、隣の会場で大講演会なんてこともあるかもしれません。マイクの声でリスニング試験の妨げになっては困ります。幸いそんなことはありませんでしたが、心配の種は尽きませんね。

そうやって、続けてこられた検定試験ですが、今も頼りにされ、1級合格者も徐々に増えているようですね。このコロナ禍のために実施・運営も苦勞が絶えないものとお察しします。語学を通してイタリアに思いを馳せられている方々。モチベーションを失わずに、ウイズコロナの新しい交流に向けて、受験に取り組んで頂きたいです。また、チャオを言いながらハグできる日を夢見て。

(理事、宮川建設総務経理部)

第2回からお手伝い 会場の確保に腐心